

## □報告□

## 実践に繋がる災害看護学に関する研究 —災害看護の実践と理論を繋ぐ講義における学生の学び—

樋本 まゆみ<sup>1</sup> 北原 玉依<sup>1</sup> 金子 順子<sup>1</sup>

## 抄録

目的：本研究は、看護学科の4年生が「災害看護学」の講義から得られた学びを明らかにすることである。  
 方法：90名の学生の授業後のアンケートから、災害看護の学びについての記述を質的記述的に分析した。  
 結果：114のデータより、7つのカテゴリーが抽出された。災害時に必要だと感じた学びは、【災害現場では倫理的判断が求められる】、【最善の冷静な判断が必要】、【混乱の中で適切な知識と技術の訓練を行動に繋げる】、【災害に耐えられる心の訓練も必要】が抽出された。理論を知り新たに捉えた学びは、【被災地内看護師と被災地外看護師の違い】、【理論は災害時の自身の判断の道しるべとなる】、【災害時の時間論には2つの軸がある】  
 結論：災害時には、今まで培ってきた看護師としての技術や知識に加え、看護師の持つ倫理観が大きく関与することや、理論を用いた講義を受けて新たな学びを得ていた。今後さらに、より実践に繋がる教育に発展させたいと考える。

キーワード：災害看護学教育、活動理論、看護学生、学び

## I. はじめに

災害看護は1995年の阪神淡路大震災を契機に災害看護教育の必要性が求められ、災害看護学会の設立や関連学会での研究報告も増えてきた<sup>1)</sup>。そして、2011年3月に発生した東日本大震災にも加え、地震や風水害等の災害看護は重要であり、被害を最小限に抑えるためにも平時からの備えや防災・減災教育が重要となってきた。看護基礎教育においても看護学生への災害看護教育が重要視されてきており、2015年指定規則の改正のカリキュラム編成に伴い、「災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する」と明記されている。また、2018年の看護教育モデル・コアカリキュラム<sup>2)</sup>によると、基礎教育の災害看護実践において、「自然災害、人為的災害等、災害時の健康危機に備えた看護の理解」がより求められるようになってきている。

本学では、2015年度に4年次選択科目として「災害看護学」(15時間1単位)を開講した。そして、4年を

経過した現在、日本国内においても度重なる災害が多く発生しており、学生自身も日常的に防災や災害時の判断に関心を持ち始めている。酒井ら(2018)は、「災害は人間の活動と密接に結びつき、命や生活への緊急時の対応が必要になる。準備、探索、救助、処置、緊急医療が行われる際にはネットワークが必要である。人々は以前の生活を取り戻そうと復旧作業を行う。しかし、生活を取り戻す時期や長さは人によって違う。援助における観点は、人々が通常の生活パターンを回復していくことである。看護師はすべての時期にかかわってくる」<sup>3)</sup>と述べている。このことから、人々は災害により、余儀なく日常生活や生活環境の変化をしいられる。人がそれを受容するためには看護師の援助がとても重要となる。災害および災害活動に関連する理論には、時間論、変革理論、活動理論、変換理論、ストレスコーピング理論、危機理論、生体理論、ネットワーク理論、コミュニケーション理論が関係する<sup>4)</sup>。その中でも活動理論におけるシステムモデルのコンテ

受付日：2019年12月19日 受理日：2020年9月24日

<sup>1)</sup> 国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科

Department of Nursing, School of Health Sciences, International University of Health and Welfare  
 m.toyomoto@iuhw.ac.jp

クストは、6つの構成要素（①主体、②対象、③道具、④共同体、⑤ルール、⑥分業）と具体的であり、活動システムの分析に適しており、エンゲストロームの活動理論の実践分析は、病院・教育・工場などの人間活動のあらゆる活動場面で行われている<sup>5,6)</sup>。このことから、酒井（2002）が検討した被災地内看護師と被災地外看護師の活動システムの比較や、被災者が感じる物理的時間と、心の時間としての時間論<sup>7)</sup>を参考に、実際に被災者でもあり、災害支援経験のある看護教員が学生に行う講義は、災害看護に対する学生の興味や説得力が増すと考えた。

そこで本研究は、実践に繋がる災害看護を意識した講義内容として災害の被災者でもあり、災害看護経験を持つ看護教員が経験をもとに、酒井ら（2018）（図1）による被災地内と被災地外の看護師の活動システムの比較と時間論<sup>8)</sup>を説明することにより、学生の学びを知り「災害看護学」教育の在り方を検討する基礎研究

の一部にするものである。

## II. 研究目的

本研究の目的は、看護学科の4年生が「災害看護学」において被災地内看護師と被災地外看護師の活動システム比較や時間論の説明することで、学生が災害時に必要だと感じた学びや理論を知り、新たに得た学びを明らかにすることである。

## III. 方法

1. 対象：2018年度「災害看護学」を履修した98名全員に対して成績判定後にE-mailにて、研究計画書および研究同意書ならびに同意撤回書を添付し送信し、研究に同意を得られた場合には研究者宛に空メールで返信してもらうことで同意を得ることを説明し、返信があった90名の学生を対象とした（倫理委員会において承認を得ている）。

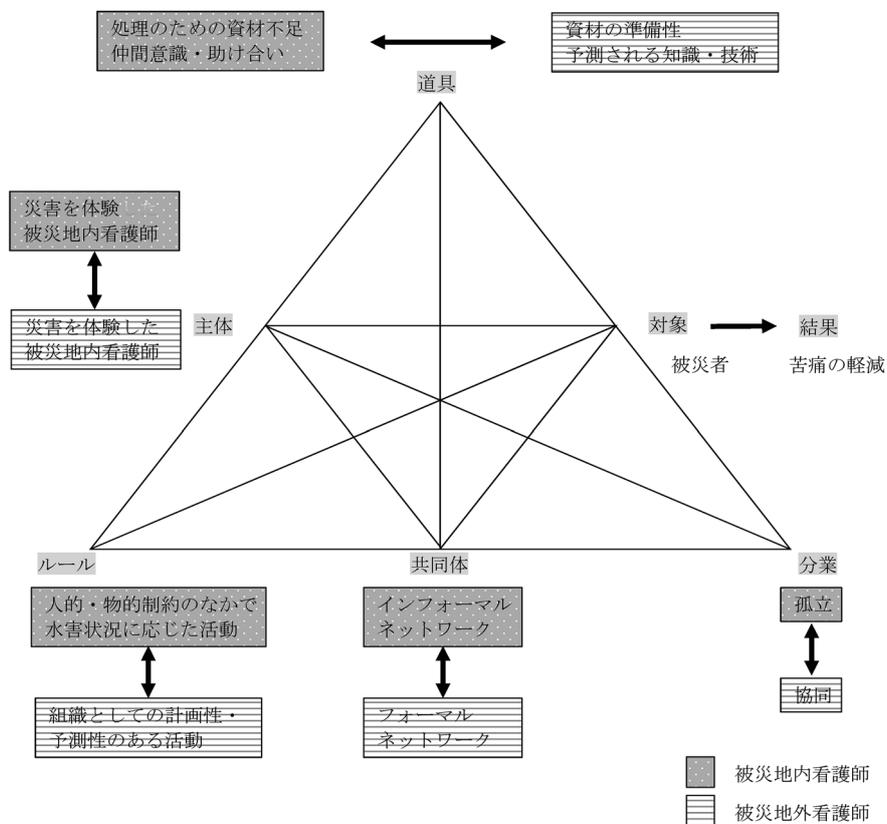


図1 被災地内・被災地外の看護師の活動システムの比較  
酒井明子, 菊池志津江子：災害看護—看護の専門知識を統合して実践に繋げる—  
改訂第3版. 南江堂. 2018. 206 図VII-2 を引用。

2. 調査期間：2018年11月1日～2019年3月31日まで  
 3. 研究方法：データ収集は、2018年前期の講義8コマのうち1コマの授業後の自由記述用紙で①災害時に必要だと感じたこと②理論を知り新たに得た学びについて記述された部分を質的記述的分析により、文脈の単位で切片化し、類似のコード化、サブカテゴリ化、カテゴリ化を行い質的研究者にスーパーバイズを受けたことと、3名の研究者でメンバーチェックングを行い信頼性の確保に努めた。

IV. 倫理的配慮

本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認を受けている（承認番号 8-10-85）。計画書の説明とともに、E-mail の返信により、研究同意を得ることを説明し、E-mail にて、不利益を回避するためにいつでも撤回できることを説明した。

V. 結果

学生の授業後の記述より「災害時の看護師に必要だと感じた学びと理論を知り新たに得た学び」に関する記述部分を切片化し、コード化、サブカテゴリ化を行いカテゴリの抽出を行った。その結果 98 枚の授業後の感想より、114 の文脈の単位からあり、13 のサ

ブカテゴリと 7つのカテゴリの抽出をした。カテゴリは【 】, サブカテゴリは〈 〉とし、代表的なコード例, 《 》を表す。  
 表 1 では災害時に看護師に必要だと捉えた学び、表 2 では理論を知り新たに得た学びについて記述した。

1. 災害時に必要だと感じた学び

災害看護において【災害現場では倫理的判断が求められる】、【最善の冷静な判断が必要】、【混乱の中で適切な知識と技術の訓練を行動に繋げる】、【災害に耐えられる心の訓練も必要】から構成された。カテゴリ、サブカテゴリ、代表的なコードを表 1 に示した。

【災害現場では倫理的判断が求められる】については、〈日常の自身の倫理観が出る〉、〈災害時には（その行動が）良いか悪いかの瞬時の倫理的判断が問われる〉からなり、《普段の自分自身の倫理観が出ると思った》(A-1)、《倫理原則を基にして考え支援する必要がある》(B-1)、《災害時には平時と違う判断が必要、瞬時に良いか悪いか倫理的判断が問われると感じた》(H-1) というように、個々の看護師自身が培ってきた倫理観が求められることを述べていた。【最善の冷静な判断が必要】については、〈災害時はいつもの判断基準が壊れる〉、〈普段以上に冷静な判断が必要〉から

表 1 災害時に必要だと感じた学び

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的なコード例	No
災害現場では倫理的判断が求められる	日常の自身の倫理観が出る	普段の自分自身の倫理観が出ると思った	(A-1)
	災害時には（その行動が）良いか悪いか瞬時の倫理的判断が問われる	倫理原則を基にして考え支援する必要がある 災害時には平時と違う判断が必要、瞬時に良いか悪いか倫理的な判断が問われると感じた	(B-1) (H-1)
最善の冷静な判断が必要	災害時にはいつもの判断基準が壊れる	災害時には日常と違う。判断の基準が壊れるから、特に冷静な判断が必要だと思った	(A-2)
	普段以上に冷静な判断が必要	災害時には普段以上の冷静な判断が必要だと感じた	(K-1)
混乱の中で適切な知識と技術の訓練を行動に繋げる	混乱の中で適切な知識と技術を持つことが重要	災害時に混乱した状況の中では、適切な知識と技術を持つことがより重要だと感じた	(J-1)
	混乱した中での行動の訓練が必要	混乱した中で災害看護の知識を持つことはその時の行動が変わると思った	(N-1)
災害に耐えられる心の訓練も必要	災害時には困難が多い ストレスに耐えられる心が必要	災害時には困難が多く、ストレスに耐えられる心が必要だが、難しいと感じた	(S-1)

表2 理論を知り新たに得た学び

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード例	No
被災地内看護師と被災地外看護師の違い	被災地内看護師と被災地外看護師の役割の違い	被災地内と被災地外看護師の役割の違いを知った	(C-1)
	被災者と被災者でない看護師は感じ方が違う	被災をした看護師と被災をしていない看護師では災害の感じ方が違う	(Z-1)
理論は災害時の自身の判断の道しるべとなる	理論を知ることが災害時に行うことや判断の道しるべとなる	理論を知ることが、災害時におこなうことや判断の道しるべとなると思った	(J-1)
	災害時の理論を知りたい	災害時の理論をもっと知りたいと思った	(IM-1)
災害時の時間論には、2つの軸がある	災害時には、物理的時間と心で感じる時間がある	心で感じる時間と災害時に感じる時間は違うと思った	(F-2)
	時間軸は深い	災害に遭う前と後では、時間の流れが違う。深いと思った	(R-1)

なり、《災害時には日常とは違う。判断の基準が壊れるから特に冷静な判断が必要だと思った》(A-2)、《災害時には普段以上の冷静な判断が必要だと感じた》(K-1)、というように看護師は災害時には日常とは違う、普段以上の冷静な判断が必要であることを述べていた。【混乱の中で適切な知識と技術の訓練を行動に繋げる】については、〈混乱の中で適切な知識と技術を持つことが重要〉、〈混乱した中での行動の訓練が必要〉からなり、《災害時の混乱した状況の中では、適切な知識と技術を持つことがより重要だと感じた》(J-1)、《混乱した中で災害看護の知識を持つことはその時の行動が変わると思った》(N-1)と述べていた。【災害に耐えられる心の訓練も必要】については、〈災害時には困難が多い〉、〈ストレスに耐えられる心が必要〉からなり、《災害時には困難が多く、ストレスに耐えられる心が必要だが、難しいと感じた》(S-1)と述べていた。

2. 理論を知り新たに得た学び

【被災地内看護師と被災地外看護師の活動の違い】、【理論は災害時の自身の判断の道しるべとなる】、【災害時の時間論には2つの軸がある】から構成された。カテゴリー、サブカテゴリー、代表的なコード例を表2に示した。

【被災地内看護師と被災地外看護師の違い】については、〈被災地内看護師と被災地外看護師の役割の違い〉、

〈被災者と被災者でない看護師では感じ方が違う〉からなり、これは《被災地内看護師と被災地外看護師の役割の違いを知った》(C-1)、《被災をした看護師と被災をしていない看護師では災害の感じ方が違う》(Z-1)ことを述べていた。

また、【理論は災害時の自身の判断の道しるべとなる】については、〈理論を知ることが、災害時に行うことや判断の道しるべとなる〉、〈災害時の理論を知りたい〉からなり、これは、《理論を知ることが、災害時に行うことや判断の道しるべとなると思った》(I-1)、《災害時の理論をもっと知りたいと思った》(IM-1)と理論への興味とその活用の意味を捉えていることが見受けられた。【災害時の時間論には2つの軸がある】については、〈災害時には、物理的時間と心で感じる時間がある〉、〈時間論は深い〉からなり、《心で感じる時間と災害時に感じる時間では違うと思った》(F-2)、《災害に遭う前と後では、時間の流れが違う、深いと思った》(R-1)と時間論での気づきを述べていた。

VI. 考察

1. 災害時に必要だと感じた学び

学生が災害時に必要だと感じた学びは、倫理的判断が多く求められる災害時には、看護師としての知識や技術および経験の積み重ねが柱となり、災害時の現象に遭遇するたびに、倫理的に良いことなのか悪いことなのかを考慮し、最善の意思決定に繋げていることや

災害時には困難なことも多く、看護師自身がさまざまなストレスに耐えられる心の訓練も必要であるということであった。これは、澤田ら(2015)もいうように、「学生は他人事のように感じていた災害に対し、災害は誰でも平等に起こることを実感し、災害時に取り扱う命の重さと“命”を取り扱う看護師に突きつけられる責任を真摯に受け止めていた<sup>9)</sup>と同様に人の命に関わる最善の判断がとれる人材になるには、日々の看護師経験に加え、災害看護の教育や訓練の重要性に気づいていたと考える。

## 2. 理論を知り新たに得た学び

理論を知り、新たに得た学びについて学生は、「同じ看護師でも被災地内看護師と被災地外看護師では役割も異なり、行うことも違うと思った」と述べていた。このことは被災地内看護師とは、被災地に住居や勤務場所がある者を指し、被災地外看護師とは、被災地外に住所や勤務場所があり、救援のために他都道府県および海外より派遣された看護師のことをいい、同じ看護師でも被災地内と被災地外では、役割が異なることを学んでいた。

それに加えて学生は、時間論について「初めて、時計の針は進んでも、それと同じように人の心の時間は進まないと感じた。災害に遭遇すると心のショックは大きく、時の流れや時間の間隔が人によって違うんだと感じた」と述べていた。被災者と被災していない者には、時間や感覚の捉え方に違いがある。時計が正確に時を刻む物理的時間に対して、心の時間は、災害による精神的負荷が大きく、時間が止まっているような感覚を覚える。これを学生は「同じ時間でも違う」と捉えたと考える。

## Ⅶ. 結論

災害時には、今まで培ってきた看護師としての技術や知識に加え、看護師である自身の倫理観が大きく関与する。また、理論を知ることで、同じ看護師でも、被災者である看護師と被災者でない看護師では役割も感じ方も異なることや、時間論については2種類の軸があり、被災前と被災後では、物理的時間と心の時間があることについて学んでいた。

今後は、さらに実際の災害体験を基にした事例を使い、理論的に分析を加えるような講義展開を試み、より実践に繋がるような教育に発展させたいと考える。

研究に関連する企業や営利を目的とした組織、または団体との過去1年間における利益相反はない。

## 文献

- 1) 松本幸子, 高比良祥子, 片穂野邦子ら. 看護基礎教育における「災害看護学」構築に関する研究—日本看護系大学における災害看護教育の実態調査と本学「災害看護学」構築の課題—. 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要 2006; (7): 53
- 2) 文部科学省. 2018. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会: 看護教育モデル・コアカリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学習目標～E-3-2 災害時の安全なケア環境の提供の理解. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/\\_icsFiles/afidfile/2017/10/31/1397885\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afidfile/2017/10/31/1397885_1.pdf) 2019.3
- 3) 酒井明子, 菊地志津子(編). 災害看護. 改訂第3版. 東京: 南江堂, 2018: 203-209
- 4) 小原真理子, 酒井明子(監). 災害看護 心得ておきたい基本的な知識. 改訂3版. 東京: 南江堂, 2019: 238-289
- 5) 酒井明子, 菊地志津子(編). 災害看護. 改訂第3版. 東京: 南江堂, 2018: 203
- 6) 河地亜矢子, 子育て支援としての乳幼児発達相談システム構築の試み: Y. エングストロームの「活動システムモデル」による分析を通して. 教育方法の探求 2003; 6: 26-34
- 7) 酒井明子. 被災地内看護師と被災地外看護師の災害体験の比較. 日本災害看護学会誌 2002; 4 (1): 61-73
- 8) 酒井明子, 菊地志津子(編). 災害看護. 改訂第3版. 東京: 南江堂, 2018: 206
- 9) 澤田由美, 古城幸子, 中山亜弓ら. 看護系大学における災害看護教育—宿泊による授業形態を体験した学生の学びから教育方法を検討する—. 新見公立大学紀要 2015; (36): 21-26

## **A study on disaster nursing applicable in practice: learning by students in a class linking theory and practice**

**Mayumi TOYOMOTO, Tamae KITAHARA and Junko KANEKO**

### **Abstract**

**Objectives:** The aim of this study is to clarify what was learned by fourth-year nursing students in a class of “disaster nursing”.

**Methods:** From a questionnaire survey conducted after the disaster nursing class of 90 students, descriptions on what they had learned in the class were analyzed using a qualitative descriptive methodology.

**Results:** Seven categories were extracted from 114 data. The following 4 categories were extracted as learning thought to be necessary at the time of disaster: “ethical judgments must be made in disaster sites”, “the best decision should be made in a calm manner”, “appropriate knowledge and skills should be put into action during chaotic situations”, and “mental training is also required to be strong enough to work in disastrous situations”. The following 3 categories were extracted as new learning acquired through theories: “differences between nurses inside and those outside disaster areas”, “theories can be used as decision frameworks at the time of disaster”, and “there are two axes of time theory during disaster”.

**Conclusion:** The students learned that in addition to knowledges and skills acquired as nurses, ethical views held by individual nurses have considerable implications during disasters. They also developed new perceptions based on theories taught in the class.

In the future, we hope to further expand the disaster nursing education applicable in practice.

**Keywords** : disaster nursing education, activity theory, nursing student, learning